

2024年

春号
No. 5

Sophia

ソフィアだより

わたしの1冊

続・呑んべい親父の独り言
春口敏栄さんのおすすめ本

温故知新

柏崎の越後縮布



特集

図書館ってどんなところ？

ソフィアセンターに行こう！



みなさんは「図書館」という場所に、どのようなイメージを持っていますか。多くの方が無料で本を借りられるところ、静かに集中して学習できる施設という認識をしているのではないかと思います。そして、読書も学習もしない自分にはあまり関わりがないと思っている方も多いかもしれません。ですが実は、図書館は皆さんが思っているよりも身近な存在。たくさん活用していただきたいと思います。

ところで、図書館はどのような目的で設置されているのでしょうか。図書館法では、図書館は図書の収集、調査研究及びレクリエーション等に資することを目的とする施設と定められています。様々な資料を集め体系的に保存し、活用しやすい状態に整えておくことで、知識や教養、文化を多くの方に届けることが図書館の大きな役割の一つです。またイベントの開催により、いろいろな年齢、立場の方を館内に集め、交流の機会を提供することも使命としています。



図書館には、乳児から高齢者まで、日々、いろいろな方が来館されます。図書館で様々な本に出会うことで、読書を通じて感性を磨いたり、知識の幅を広げたりすることが可能で

館内では、本を介して人と人が触れ合う様子も多く見られます。心温まる一時を過ごしに来館される方も多い印象です。



日常の小さな疑問から暮らしや仕事に関する困りごとや手順に至るまで、図書館の資料を用いると様々なヒントが得られます。

総合カウンターでは、図書館職員が調べもの補助や文献紹介を行うレファレンスを常時受け付けています。専門的な視点で図書館の蔵書の中から利用者のニーズに合った資料をご用意します。



おはなし会や上映会、展覧会などの催しものでは、多くの方と知的体験を共有することができます。

趣味や娯楽、憩いの場として、多くの方の暮らしに彩りを添えています。

イベントのおしらせはこち



今日は何しに図書館へ

ソフィアセンターの利用者は、日々、様々な目的を持って来館されます。実際にどのような方が来館されるのかご紹介します。

- Q1** 今日は何をしにソフィアセンターに来ましたか。
- Q2** ソフィアセンターはどのくらい利用していますか。
- Q3** ソフィアセンターの好きなところを教えてください。
- Q4** あなたにとってソフィアセンターとは？

A1 Word・Excelの勉強会をするためです。



NET陽だまりの皆さん

A2 パソコンの使い方を学ぶために、月に2回の頻度で集まっています。

A3 職員の方が親切で利用しやすい雰囲気であるところ。

A4 インターネット環境や館内設備が整っていて、安心して勉強できる場所です。

A1 予約していた本を借りにきました。

A2 2週間に1度。Wi-Fi環境を利用して、ホームページから本を予約しています。

A3 児童コーナーやえほんのへやが好きです。えほんのへやの小上がりでは、孫と一緒に過ごします。

A4 憩いの場、心のオアシスです。



関潤子さん

A1 学校の課題をするために学習室を利用しました。



江部小春さん

A2 今日は久しぶりに来ましたが、毎日通っていたときもあります。

A3 ティーンズコーナーがお気に入りです。

A4 静かで居心地の良い場所。本に囲まれてホッと一息つける空間です。

A1 柏崎サイエンスプロジェクト(KSP)の研究課題を調べにきました。



A2 テスト前などは頻繁に利用しています。

A3 静かで落ち着けるところ。柏崎高校バレーボール部の本特有のいい香りも好きです。

A4 小さい頃に家族で本を借りたり、イベントに参加したりしていたため、思い入れがある場所です。



歌代信夫さん

A1 図書館後援会の行事のためにきました。

A2 週に1回ほど。昔読んだ本を借りたり、社会福祉協議会の活動で来たりします。

A3 雰囲気がよく入りやすいところ。

A4 腐れ縁(笑)(小学校では図書委員でした。ソフィアセンターの職員だったこともあります。)



A1 学習室で新聞に投稿する短歌や俳句、川柳の構想を練っていました。

A2 週に1、2回。3~4時間利用しています。

A3 利用者のマナーが良く、上村茂和さん

静かにゆっくりと利用できるところ。

A1 お母さんと二人で絵本を借りにきました。



横田柚さん

A2 借りた絵本を読んだら、また借りに来ます。2週間に1回くらいです。

A3 入口でおいしいパンを売っているところです。

A4 お母さんやお姉ちゃんと一緒に読む絵本を選んで借りるところ。

郷土資料から柏崎の良さを再発見しよう！



イザリバタで織る献上品

温故知新



郷土のことを調べる

キンヌギ朔日^{さくじつ}という言葉を聞いたことがありますか。キンヌギは絹脱ぎのこと、衣替えの日のことです。冬の衣服から夏の衣服へと変わります。

むけの朔日、氷の朔日という地方もありますが、新潟県では「キンヌギツイタチ」と言われています。『柏崎市史資料集 民俗篇』によると、キンヌギ朔日にはキンヌギ餅を搗いて食べる、また蛇が衣を脱ぐから桑畠には行ってはいけないなどと言われていたそうです。

夏の着物といえば麻の織物です。軽くて薄い生地は見た目にとっても涼やかです。新潟県内には多くの織物の産地がありますが、かつてはこうした織物を扱う柏崎の縮商人が有名でした。

『ことものための柏崎物語 続』では、柏崎の縮商人について詳しく書かれています。米沢などから原材料の青苧^{あおそ}を仕入れてきて行商し、縮布にしてもらったものを差引勘定して商売をしていたそうです。今から330年ほど前の記録では、縮布の産額は3万反、縮商人は80人で、その8割近くは柏崎の人だったそうです。

買い付けた縮布はそのまま売られるのではなく、小千谷でさらしたのち、柏崎でさらに仕上げ作業を行います。霧吹きでしめらせ布に包んで踏む、指でひっぱり幅をのす、定規に合わせてたたむ、さらに一反ごとに板をあてて万力でしめ、はさみでケバを切れます。柏崎の縮屋200軒、紺屋や加工をする人など街をあげての仕事だったそうです。こうして仕上げられた縮布を縮商人は江戸や京都、大阪の上流階級の人々のもとに届けたのです。明治時代になると洋装に移り変わり、柏崎の縮商人は減少しました。



縮織りの作業風景

●参考資料

- 『柏崎市史資料集 民俗篇』柏崎市史編さん委員会編 (214. 1 カ)
- 『ことものための柏崎物語 続』笛川芳三著 (214. 1 ササ)
- 『越後縮布の歴史と技術』渡辺三省著 (586. 3 ワ)
- 『柏崎ちぢみ行商史』宮川嫩葉著 (672. 1 ミ)
- 『柏崎歳時記』山田良平著 (914. 6 ヤマ)

わたしの 1 冊



「生き物の死にざま」

稻垣栄洋／著 草思社 2019年発行
(481. 7 イ)

柏崎日報で
続・呑んべい親父の独り言を連載中

図書館 Mini コラム

紙の本ができるまで

図書館にはたくさんの本があります。大きさもページ数も様々ですが、すべて紙でできていますよね。では紙が発明される前は、本は何でできていたのでしょうか。

古代エジプトで文字を記録するために用いられたのは、植物の茎から作られたパピルスでした。パピルスは折り曲げるのに適していなかったため、つなぎ合わせて巻物状にしていたそうです。またメソポタミアでは柔らかい粘土版に、エジプトでは羊やヤギの皮に文字を記していました。

紙ができる前は
いろいろな素材でできた
本があったのですね。



全29編のエッセイに、人物は登場しない。それなのに、いつの間にか“自分や誰か”に置き換えて、読みながら泣いている私がいる。

各編が壮大な命の物語。生き物たちが見せつける“死にざま”は、「何の為に生れてきたのか？」を考えさせる“生きざま”でもありました。

身近で良く知る生き物たち。だからこそ「へえ～そうだったのかあ」と、いつの間にか引き込まれ、読了。お薦めです。

